



古寺 貞之さん

1944年生まれ。竹間沢ほたる育成会会長。生まれ育った竹間沢、三芳町が大好き。子どもが大人になっても、三芳町を誇りに思い、故郷と自然を大切にしたい気持ちを持ち続けてほしいと日々願う。

### 子どもたちに自然の大切さを



自然豊かな故郷を肌で感じてもらうため、地元の竹間沢小学校の児童たちに幼虫の放流してもらっています。子どもたちは未来の宝です。小さなころから、たくさん故郷三芳町の魅力に触れて、大人になったときに「三芳町が誇り」と思ってもらえるように成長することを願っています。東京から一番近い町でホタル観賞ができる強みを活かして、町を盛り上げていきたいです。



### 車人形を守り続けていきたい

地方公演をして感じることは、三芳町があまり知られていないということ。町内の人たちの関心も低い。12月20日(日)にコピスみよしで年に一度の公演を行います。約160年前にこの三芳町に伝わった車人形の迫力と伝統、人形に魂を宿す演者の想いをぜひ生で味わってほしいです。三芳町と車人形を多くの人に知ってもらうため、受け継がれてきた灯をずっと守り続けていきたいです。



前田 益夫さん

1935年生まれ。竹間沢車人形4代目座元のほか、里神楽の太夫でもある。前田さんが手にしているのがロクロ車。前田さんが演じる人形(写真左)はまるで生きているかのようだ。

## TOKAI NAKA

# 三芳愛

三芳町が好きだから。その気持ちが人の心を動かし、町を支える力となっています。

### 受け継がれる灯

全身全霊を演技に注ぎ、人形に命を宿す。幕末に近い1860年ごろ、

竹間沢の前田家に伝わった人形芝居、車人形。ロクロ車に腰かけ、人形を一人で操るこの伝統芸能は、全国で三芳町を含め3地域のみ現存。幾度となく伝統が途切れそうになりましたが先代のため、町のために現在も公演を続けています。

### 子どもたちに笑顔を

小さな町、三芳町。地域のつながりが強く、積極的にボランティア活動を行う人が多いことも魅力のひとつ。子どもたちのために尽力する、読書支援ボランティア。未来を創る子ども

たちを大切に想う気持ちが、子どもを、町を支える原動力となっています。

### ホタルの光ふたたび

田園地帯が広がり、夏はホタルの光を楽しむ。

今は、工業団地が広がる竹間沢の約50年前の思い出。当時の少年はやがて大人となり、脳裏に焼き付いたホタルの光を今の子どもたちにも見せてあげたいと願うようになりました。竹間沢ほたる育成会。こぶしの里の清掃など、ホタルが生息できる自然環境を整備。今ではこぶしの里に一日700人以上が町内外からホタル観賞に訪れる町の観光スポットになりました。

### 三芳町に貢献したい

住民の生活の足として、町内を走るライフバスを運転する一人の青年。小さいころから乗り物が好きで、バスの運転手になることを夢見ていました。その夢は叶い、生まれ育った町に貢献したいという思いは募り、私鉄バスから地元ライフバスに転職。三芳愛を乗せ日々、町内を走っています。

### 地元愛の想いを乗せて走る



私鉄バスの運転手として町外で働いていましたが、生まれ育った三芳町で働き、地域の人たちと

触れ合いたい、地元で貢献したいと決意し、7年前にライフバスの運転手となりました。地元のお客様から「ありがとう」と感謝の言葉をかけられると、とっても嬉しいです。これからも大好きな三芳町のため、お客様のために安全運転で、自分の力を町で発揮させ貢献していきたいです。



清水 孝志さん

1981年生まれ。ライフバス運転手。生まれ育った上富地区は自然と緑が豊かなところ。自然が大好きな清水さんは写真が趣味。余暇の時間に写真撮影するのが楽しみとのこと。



由水 たけ子さん

1942年生まれ。読み聞かせや朗読が得意で、長唄師範。高齢者や介護施設に訪問するなど、精力的に活動中。ハワイアンバンド「タフワフワイ」のヴォーカル&ウクレレもつとめる。

### 小さな町、つながりの強い町

子どもたちには可能性やチャンスがあります。約40年前から暮らしていて、最近子どもたちが



町内に増えてきたな、と感じるようになりました。私にできることはその子どもたちに、読み聞かせをしたり、先輩としていろんなことを教え、伝えること。小さな町ですが、人とのつながりがとっても強い三芳町。地域の連携を上手に活かして老若男女、みんなが共生できる町にしていきたいです。